

労働災害の約8割は、停車時に発生

停車中の危険は、すぐ側に

鋼材の上から転落しそうになったヒヤリ・ハット事例編

労働災害は、いつ発生するか分かりません。しかし、事前の対策によりその多くは防止できるでしょう。今回は雨で濡れた鋼材の上で足を滑らせ、転落しそうになったヒヤリ・ハット事例および対策を紹介します。

災害例

雨で濡れた鋼材の上で足を滑らせ 転落しそうになった

作業者は配送先の工場で鋼材を降ろす前準備として、トラック荷台に上がり、鋼材に掛けていたシートを外す作業をしていた。鋼材は雨で濡れていたため足を滑らせ転倒し、トラック荷台から転落しそうになった。



原因

- 足元の注意不足
「雨で濡れた鋼材は滑りやすい」ということへの考慮が足りなかった。
- シートを無理に引っ張った

対策

- 墜落制止用器具(安全带)の着用
荷台での作業では、安全帯を着用しないことが多いが、転落防止のため可能な限り着用する。
- 作業はできるだけ地上から行う
- 作業手順書を作成し、安全教育を徹底する

荷台上では作業の基本を遵守し、労働災害を防止

荷台上で荷役作業を行う際は以下のことをしっかり守り、転倒・転落災害防止に努めてください。

⚠ シートが荷物の角に引っかかった際には、力ずくで引っ張らずその場まで行って直す

⚠ シートを引っ張る場合は、その反動を予測して作業する

⚠ 作業はできるだけ地上から行う



⚠ 保護帽(ヘルメット)を必ず着用する

⚠ 荷台上で作業を行う場合は、背中を荷台内側にする

⚠ 作業は車両のあおりに足をかけずに行う